

第17代大阪大学総長に就任して



巻頭言

平野俊夫*

The expression of the belief as the president of 17th OSAKA UNIV.

Key Words : the belief, study of the basic arts and sciences,
president of 17th OSAKA UNIV

大阪大学は、「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎（大阪帝国大学第2代総長）や大阪府知事の柴田善三郎ら関係者の努力により、1931年、医学部と理学部の2学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、我が国第6番目の帝国大学として誕生しました。

江戸時代末期、緒方洪庵が「新知識をもって世の中の人を救う」ことを目的に私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風と先見性は、大阪府立医科大学を経て、医学部と理学部へと繋がります。翌々年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学と国学などを伝習した「懐徳堂」の蔵書類が懐徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想も受け継ぐに至りました。新制大学としてスタートの際には、法文学部を文学部と法経学部へ改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。

大阪外国語大学出身の司馬遼太郎が小説「花神」の冒頭で、適塾を大阪大学の「前身」、緒方洪庵を「校祖」と表現しています。このように、「適塾」を原点として、「懐徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪市民の熱意に支えられた本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、2004年の国立大学法人化、

2007年の大阪外国語大学との統合を経ながら、我が国を代表する総合大学として世界に向かって、たゆみなく発展を遂げて参りました。そして大阪大学は、昨年創立80周年を迎えました。「原点へ・未来へ」をタイトルに掲げ、大学の現在の姿をその原点に見出し、その現在に立ち未来へ飛躍しようとしています。

今日、我が国は戦後最大の危機に直面しています。昨年3月11日には東日本大震災が日本を襲いました。さらに原子力発電所の事故が引き継ぎました。150年前の江戸時代末期には、外国から開国を迫られるとともに安政の東海大地震、南海大地震、江戸大地震が引き続き日本を襲いました。日本は国家存亡の危機に直面いたしました。この困難を克服して明治維新を切り開いたのは適塾門下の福澤諭吉や、土佐藩の坂本龍馬をはじめとする多くの若者の力です。いつの時代においても、魔法のような素晴らしい解決法はありません。困難な時ほど、基本に立ち戻る必要があります。我々大学人も、今一度基本に戻り100年先を見据えて歩んで行く必要があります。目の前のことだけに捕われることなく、大学は「学問と教育の府である」という基本に立ち戻り、22世紀をも見据えて、大学の社会的責務を果たしていかなければなりません。

我が国が存続していくためには、学術や科学技術の振興が不可欠です。学術の振興なくして革新的な技術開発や、心豊かで平和な社会の発展はありえず、社会が大学に求めているところは、知的創造活動としての基礎的学術研究の推進であります。大学がどれほど基礎的学術研究に力を注いでいるかは、その大学の底力に反映されると思います。流行に流されることなく、永続性を有し、かつ卓越した「学問の府」であり続ける基盤を確立する努力をしていかなければなりません。産学連携においても、単に目の



*Toshio HIRANO

1947年4月生
大阪大学医学部卒業（1972年）
現在、大阪大学総長
TEL：06-6879-5111
FAX：06-6879-3019
E-mail：hirano@molonc.med.osaka-u.ac.jp

前の成果を求めるだけではなく、将来の産学連携の種をまくための基礎的研究を推進するシステムを導入する必要があります。産学連携がより高い次元で実を結ぶためにも基礎的研究の積み重ねが必須であることは言うまでもありません。

大学でしかできない基礎的学術研究や、大学でしかできない学問に基づいた教育を推進していかなければなりません。国や社会に対して、学術や教育のあり方を積極的に提言していくことが大学の務めでもあります。そのためには、大学の個々の構成員が、澁刺と自由に活動できること、多様性を有するすべての教育研究組織が独自性を発揮できることが大学

発展の根本であります。

蘭学や西洋医学を我が国に導入した適塾で学んだ多くの人々が明治初期に我が国の近代化のために活躍しました。大阪大学は、この原点に立ち、日本はもとより世界から優秀な人材を集め、国際社会に送り出していかなければなりません。「世界をリードする学問と教育の世界的拠点となる」という高い志をもって、22世紀においても輝き続ける大阪大学の基盤を、大阪大学構成員の英知と力をあわせて築いていきたいと思えます。

引き続きよろしくご指導、ご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

